

# 「ほがらか会」とのタウンミーティング

2019.1.21 (月) 13:37~15:05  
ふれあいプラザ 2階 第1会議室

○参加者 市民 25人

※ ほがらか会は通所型介護予防サービスを提供するボランティア団体で、正式名称は「まだまだ元気な高齢者サポートグループほがらか会」

## ●市長あいさつ・市政報告

- ・インフルエンザが流行っている。予防してほしい。今年の漢字は「災」であった。能美市でも豪雨、台風、火事があった。台風の際に自主避難所を根上・寺井・辰口の3か所に開設したところ1人暮らしで不安と言う人が避難された。今後も自然災害は起こると思うが、避難所のあり方を考えていく必要があると感じている。
- ・能美市の人口変動（今後減少していく）
- ・政策目標と課題  
（人口減少・自然災害・アセットマネジメント⇔移住定住の促進・地場産業振興・企業誘致推進・交流人口の拡大・行財政改革・教育力の向上）
- ・人口減少の要因（自然減・社会減）
- ・地域包括ケアシステムの構築に向けた第6期のびのび高齢者プラン（2015~2017）
- ・要介護認定率の減少
- ・我が事・丸ごと地域づくりに向けた第7期のびのび高齢者プラン（2018~2019）
- ・今後の取り組み  
（地域福祉委員会の活性化、地域力強化、地域課題やニーズの把握、学習会の開催、各町の専門分野を決め、その取り組みを共有するしくみの構築）
- ・市民力・地域力、ふるさと愛の必要性

## ●アイスブレイク

- ・笑いヨガとクイズ

## ●意見交換

（会長）

- ・老人ホームに視察に行った際、出会ったおばあちゃんに恐縮しながら「お世話になっています」と言われたことがショックだった。年を取って何もできなくなり、老人ホームに入ることは悪いことではない。高齢者のためにできることはないかと思った。それがほがらか会の前身となった。
- ・毎週、根上・寺井・辰口地区でそれぞれ8人がほがらか会の通所サービスを利用し

ている。利用者がありがたいと言ってくれているから続けていける。これからも頑張っていきましょう。

(以下、会員より自己紹介)

(市民)

- ・ 根上地区のほがらか会は月1回開催している。人口減少で、ボランティアも少なくなるのではないかと心配している。ボランティアは70代が中心で、60歳代はボランティアに出られないようである。
- ・ ほがらか会の受入れ人数は24人であるが、他にも来たいと言っている人がいる。場所やボランティアの人数が足りていないように思う。

(市民)

- ・ 誘われて、ほがらか会でボランティアをしている。通所する側の年齢に近づいてきた。出来る限り続けていきたいが、いつまでできるかと思う。ボランティアの人数が増えないので心配している。

(市長)

- ・ ボランティアの人数については私も心配して悩んでいる。
- ・ 婦人会も会員数の減少が課題であり、講演会や習い事の機会をつくるなど他では出来ない経験ができるといった加入特典があれば会員が増えるのではと提案したこともあったが、なじまないとのこと。
- ・ 女性の社会進出を後押しする仕組みができないか悩んでいるところなので、お知恵を頂きたい。

(市民)

- ・ 自分の家の介護等で苦労しなかったのでボランティアを続けることができた。最初は高齢者との接し方がわからなかったが、ボランティアを続けるうちにできるようになった。経験を積むことが大事である。

(市長)

- ・ 私もそう思う。子育てをしている人に話を聞くと子供の送迎等があるので時間がないと言っていた。「同居・近居をすれば時間がとれるのでは」と言うと「それはちょっと」と言われることもありどうすればいいのか悩んでいる。

(市民)

- ・ 人に誘われて、はまなすの丘でのシーツ交換や市立病院の見守りのボランティアをしてきて、ほがらか会にも入っている。最初は強制的だったが、いろんな話を聞いたり、経験したりできたのでよかったと思っている。

(市民)

- ・ 平成 25 年にほがらか会が始まったが、それ以前にもシーツ交換やお話し相手のボランティアをしていた。自分ができる間は頑張っってやりたいと思っている。その後のことが心配。

(市民)

- ・ 市立病院でお話し相手をしたことがきっかけでほがらか会に入った。利用者から学ぶことがあり、パワーももらえる。住み慣れたところで暮らすのが一番だと思っている。できる限りお年寄りと寄り添っていきたい。

(市民)

- ・ 退職したらボランティアをしようと思っていた。近所の人に誘われていろいろしてきて地域のことが分かってきた。人と関わることで健康でいられるし、勉強にもなるので、できる限り続けていきたい。

(市民)

- ・ 以前は自分の家庭のことにしか興味がなく、地域のことに関心がなかった。孫 5 人の世話を終えて、自由な時間ができたときに誘われた。ボランティアといっても相手に気を遣わせるだけかなと思っていたが、そんなことはなく話をするだけでもいいということがわかった。今は生きがいとなって、頑張っている。

(市民)

- ・ 介護認定率が下がっていると聞いて介護認定を受ける前に閉じこもり予防をすることが大切だと感じた。ほがらか会の仕事は重要なのでがんばりたい。行政の協力もお願いしたい。

(市民)

- ・ ボランティアで自分も成長できた。みんなにも社会貢献としてボランティアしたいと思うようになってほしい。若い人にも取り組んでほしい。子どもの時から社会貢献の機会があるといいと思う。

(市民)

- ・ 辰口地区ではボランティア 4 人で 8 人のお相手をしている。ボランティアも楽しんでやっているし、利用者も期待して楽しみにしてくれている。

(市民)

- ・ 経験はまだ浅いが、利用者や他のボランティアと話をすることが楽しい。

(市民)

- ・ 2 か月半に一度当番でボランティアをしている。利用者に元気をもらっている。

(市民)

- ・ 利用者がもっと回数を増やして欲しいと言っている。利用者は話をしたくてたまらないようで、楽しんでもらえている。

(市民)

- ・ 亀齢荘のトイレで利用者が倒れてしまったことがあった。開き戸だったためドアを押さえないがらの救出が大変だった。引き戸の方がいいと思う。利用者に安全安心に、元気に帰ってもらいたし、責任もあるのでぜひお願いしたい。

(市長)

- ・ 見ておく。

(市民)

- ・ 誘われて、迷ったけれど声をかけてもらえたことに感謝してボランティアに参加した。やりがいがあるのでがんばっていききたい。

(市民)

- ・ ほがらか会に入って 1 年ちょっと経った。いろんな交流をしたくて、考え方を換えたいと思って参加している。学ぶことが多い。
- ・ 小中学校のボランティア委員会を活発にすると、将来、ボランティアをする人が増えるのではないかと思う。

(市民)

- ・ ボランティアは信頼してもらえることが大切である。がんばっていききたい

(市民)

- ・ 手話なども好きで自分から参加している。いろんな所に参加することが生きがいとなっていて楽しみながらやっている。

(市民)

- ・ 今の高齢者は若々しく、寿命も延びている。楽しかったと言って帰ってもらえるよう続けていきたい。介護認定の状況については認定条件が厳しくなっているように思う。あんまり厳しくしないでほしいし、地域で見守ることができるようにしていきたい。

(市民)

- ・ 以前、介護の仕事をやっていた。施設の利用者はスタッフにやってもらって当たり前だが、ほがらか会では感謝される。利用者は楽しみにしていて元気がある。自分も元気でいたいので楽しみながらがんばっている。
- ・ 総合事業Bの仕組みを教えて欲しい。

(会長)

- ・ それについては改めて勉強会を予定している。

(市民)

- ・ 仕事をしながら月1回、気を引き締めてボランティアをしている。

(市民)

- ・ 市長にほがらか会のボランティアに来て欲しい。

(市民)

- ・ ほがらか会にくる利用者はとても元気で前向きである。もっと回数を増やしてほしいと言われる。利用者から腹の中までわかってもらえるところはほがらか会だけと言われている。教育など他の分野とつなげてボランティアを続けられるようにしてほしい。

(市民)

- ・ 寺井地区では介護ボランティア元気会の会員がほがらか会の会員にもなっている。
- ・ 102歳までほがらか会に来られていた方が、歩行が難しくなって通所施設に自分の意思で移るという事で卒業式をした。大体の人は転んだり、認知症が進んだりして会

に來られなくなる。初めて卒業式を行うことができたが、これが理想と思っている。私達もそのように生きていきたい。

(会長)

- ・ 社会福祉協議会にはがらか会の事務局をしてもらった。社会福祉協議会と協働することで社会的信用ができると思った。継続できているのは社会福祉協議会の助言のおかげだと思っている。頑張っていくのでよろしくお願いします。

(社会福祉協議会 次長)

- ・ 合併以前からつどいの場ということで旧町単位で社会福祉協議会がボランティアを支援してきた。市民がボランティアを、達成感をもってやっていくのと義務としてやっていくのは違う。市民が活躍してもらえるように支援していきたい。

(会長)

- ・ 能美市では協働型まちづくりをしているが、市民に対してパートナーになってほしいというからには市役所職員が協働型まちづくりについてもっと知らないといけない。市民にやる気があっても、職員になれば何もできない。がんばって意見を言ったりしてほしい。

#### ●市長あいさつ

- ・ 私はじいちゃん子、ばあちゃん子だったので、祖父母の存在は大きい。
- ・ 高齢者とひとくくりにするのではなく、一人ひとりの人生や生活があると感じた。市の取り組みもそれぞれの顔や人生経験を見て困っていることを把握し、施策を推進していくことが大切である。過去の経緯も考えながら、今後の方針を皆さんと一緒に作り上げていきたい。
- ・ 生の意見をしっかりと受け止め次へつなげていきたい。